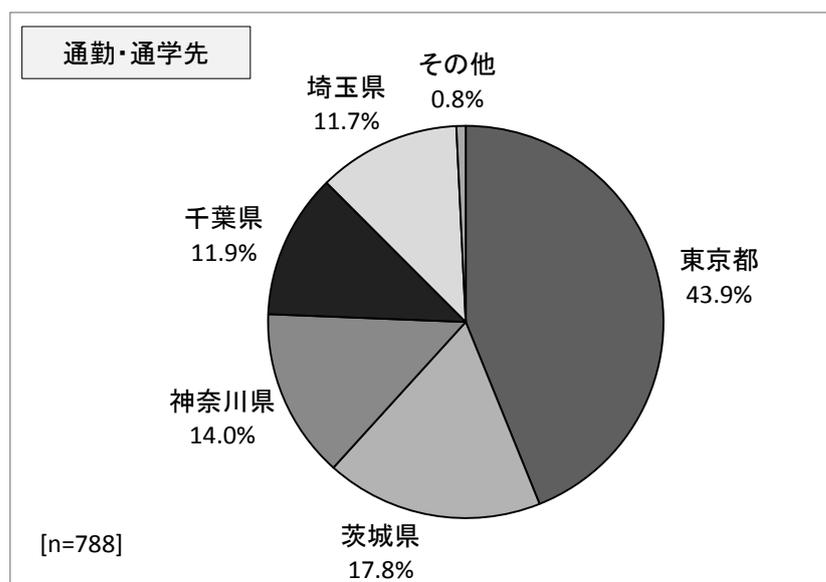


2. 通勤・通学先について

(1) 通勤・通学先

通勤・通学先は、「東京都」が 43.9%と最も高く、以下「茨城県」(17.8%)、「神奈川県」(14.0%)、「千葉県」(11.9%)、「埼玉県」(11.7%) となっている。

図表 1



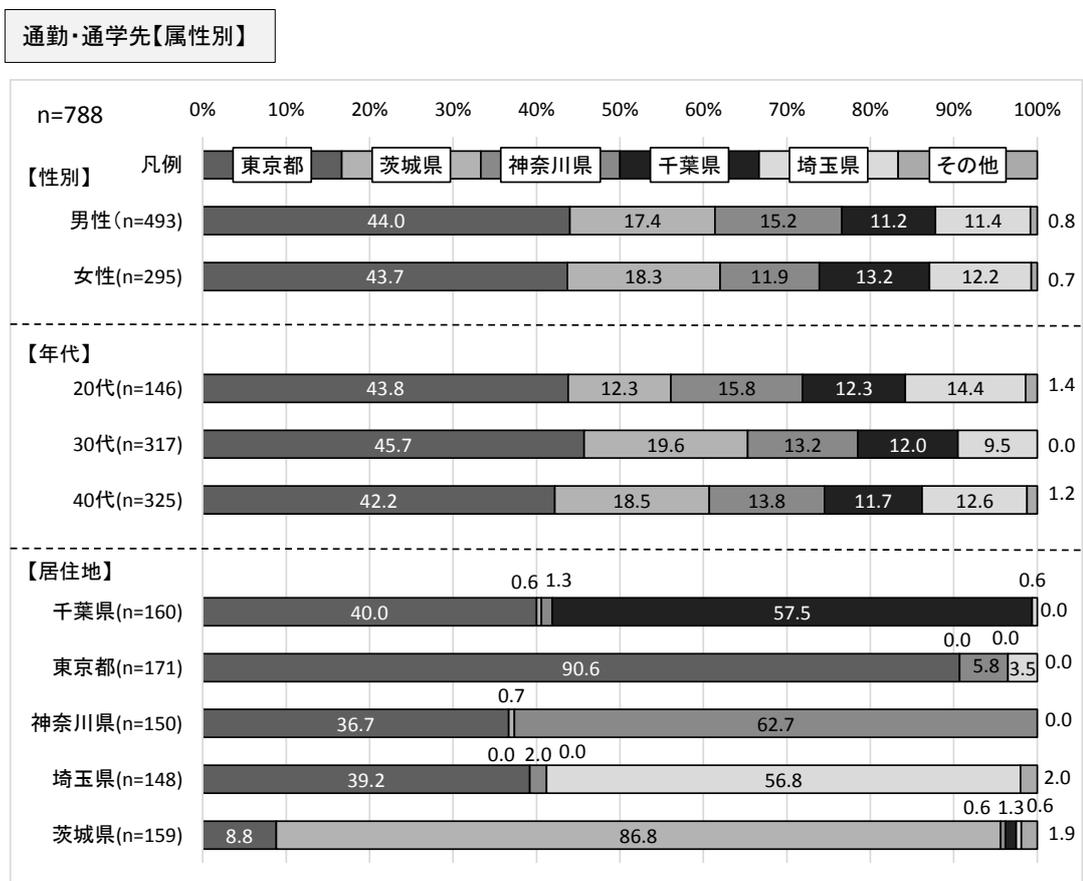
《属性別》

性別で見ると、男女ともに「東京都」の比率が4割強と最も高く、次いで「茨城県」となっている。

年代別にみると、すべての年代で「東京都」の比率が4割強と最も高く、次いで20代では「神奈川県」、30代と40代では「茨城県」となっている。

居住地別にみると、居住地の都県内で通勤・通学している比率が高く、なかでも東京都と茨城県に住んでいる人はその傾向が強く、それぞれ9割強、8割強と突出している。

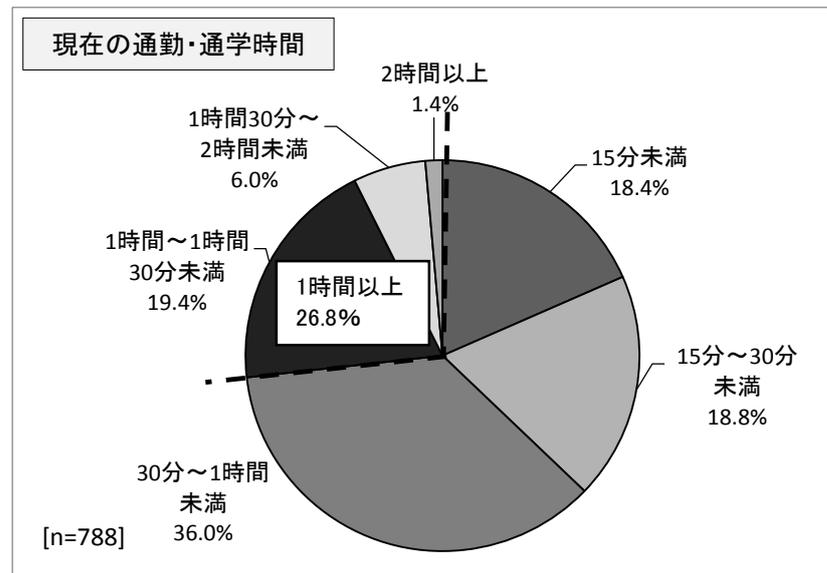
図表 2



(2) 現在の通勤・通学時間

現在の通勤・通学時間は、「30分～1時間未満」が36.0%と最も高く、以下「1時間～1時間30分未満」(19.4%)、「15分～30分未満」(18.8%) などとなっている。1時間以上は、合計で3割弱となった。

図表 3



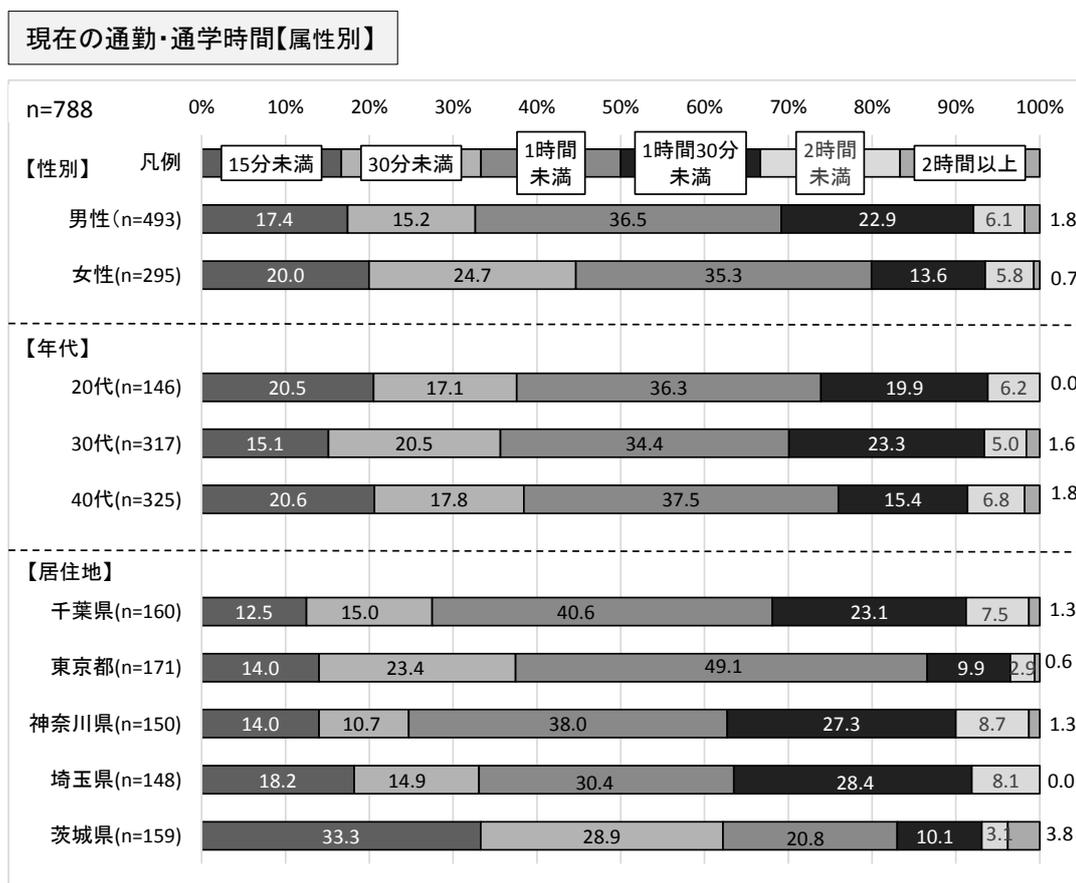
《属性別》

性別でみると、男女ともに「1時間未満」の比率が最も高くなっている。「～30分未満」（15分未満+30分未満）では、女性（44.7%）は男性（32.6%）よりも10ポイント以上高く、男女で差がみられる

年代別にみると、すべての年代で「1時間未満」の比率が最も高くなっている。30代では「1時間30分未満」（23.3%）の比率が他の年代よりも高くなり、比較的通勤・通学時間が長いことがうかがえる。

居住地別にみると、茨城県を除いた都県で「1時間未満」の比率が最も高くなっている。茨城県では「15分未満」が最も高く、「～30分未満」（15分未満+30分未満）で6割を上回り、比較的通勤・通学時間が短いことがうかがえる。「～1時間未満」では、東京都（86.5%）が8割を超えているのに対し、神奈川県（62.7%）、埼玉県（63.5%）では6割強にとどまり、居住地で差がみられる。

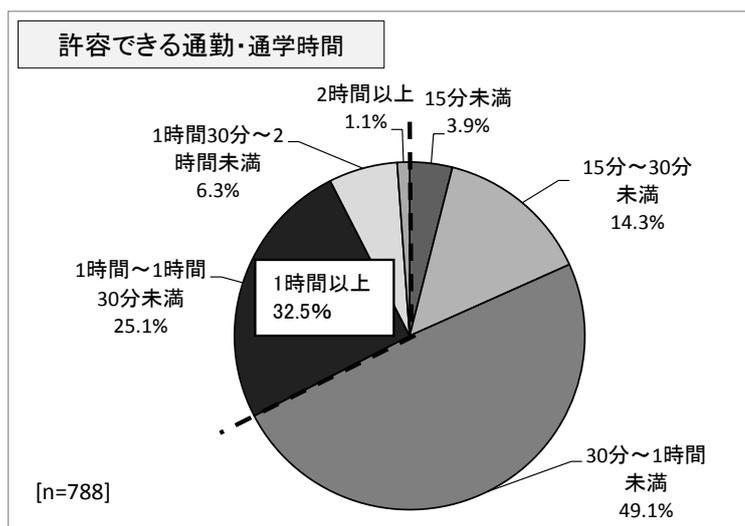
図表 4



(3) 許容できる通勤・通学時間

許容できる通勤・通学時間は、「30分～1時間未満」が49.1%と最も高く、以下「1時間～1時間30分未満」(25.1%)、「15分～30分未満」(14.3%)などとなっている。1時間以上は合計で3割強と、現在の通勤・通学時間(同26.8%)に比べて高くなっており、許容時間が広がっている。

図表 5



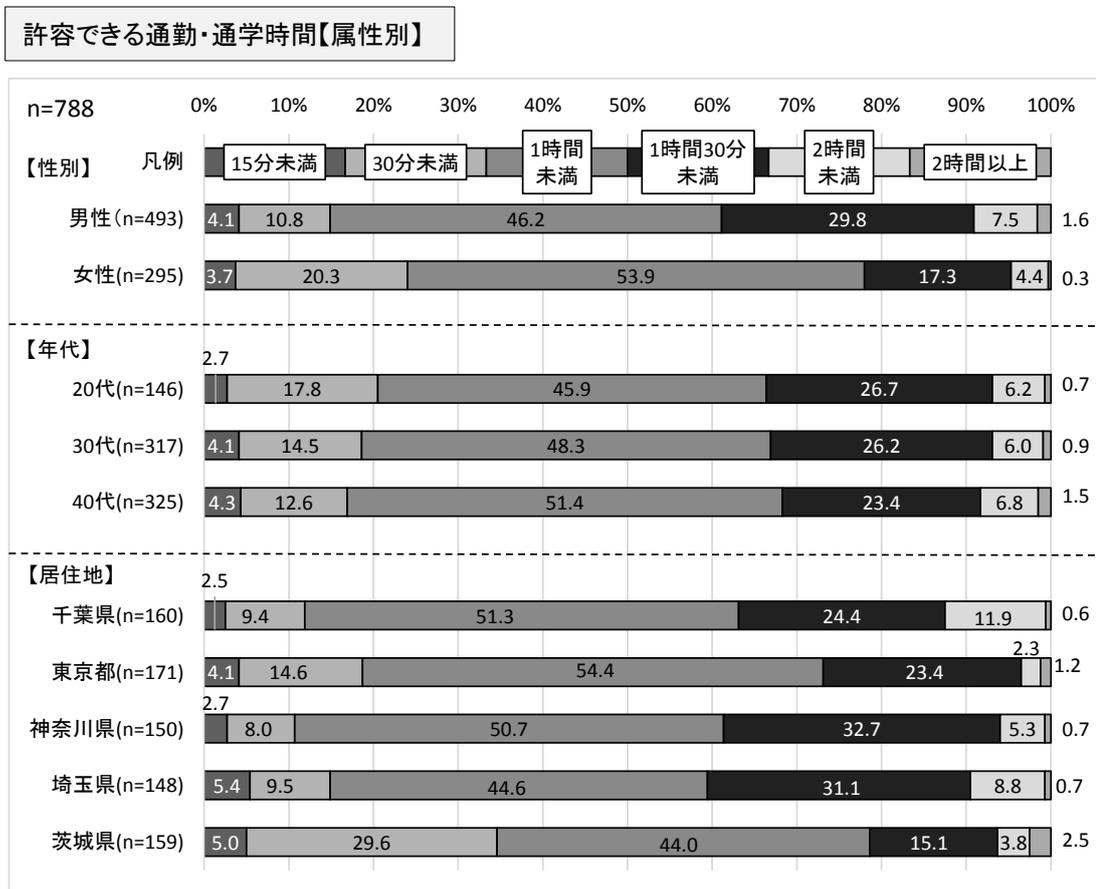
《属性別》

性別で見ると、男女ともに「1時間未満」の比率が最も高くなっている。なかでも女性（53.9%）は現在の通勤・通学時間（同 35.3%）に比べて18.6ポイント高くなっており、許容時間が広がっている。

年代別にみると、すべての年代で、「1時間未満」の比率が最も高くなっている。また、すべての年代で、1時間以上の比率は合計で3割を超えており、現在の通勤・通学時間に比べて許容時間が広がっている。

居住地別にみると、すべての都県で「1時間未満」の比率が最も高くなっている。なかでも茨城県（44.0%）は現在の通勤・通学時間（同 20.8%）に比べて23.2ポイント高くなっており、他の都県と比べて許容時間が広がっている。一方、「30分未満」の比率も茨城県は他の都県と比べて突出している。

図表 6



《我孫子市への居留意向別》

我孫子市への居留意向（我孫子市は住宅購入の候補地となると思うか）別にみると、「思う（思う+やや思う）」と回答した人は、「思わない（あまり思わない+思わない）」と回答した人に比べて、1 時間以上の比率が高く、比較的許容できる通勤・通学時間が長くなっている。

図表 7

